



今号の法語

亡き人を案ずる私が、
亡き人に案じられている



ここ最近はいままでお世話になった方が次々と亡くなられてしまわれて、とても寂しい思いをしました。目を閉じるとその方との生前の思い出が浮かんできて、「ああ残念だな」と感じさせられます。私たちは大切な方が亡くなられ、それまでの姿が変わって白骨となってしまったら、その方との関係が断ち切られたかのように思いがちです。「人間死んだら終わり」という価値観であればそうかもしれませんが。しかし亡くなっていかれた方々の存在によって、今を生きる私たちが生きる力をいただいているという事があるのではないかと思います。「これではご先祖に顔向けできない」「亡き父が見守ってくれた」という事もそのひとつではないでしょうか。このように私たちは亡くなられた方々とは理屈を超えて繋がっていると思います。仏教の教えでは、亡くなられた方々は全て阿弥陀仏の弟子である仏さまとして、残された方々を常に案じておられます。それを表現しているのがお仏壇の脇に亡くなられた方の法名が掛けてあるということです。これらは理屈や科学では説明することが出来ませんが、亡き人を憶う事おもで背筋が伸びる思いがします。私たちはふとした時にしか亡き人を憶うことおもとは出来ませんが、仏さまとなって行かれた亡き人は、愚かな私たちを常に案じてくださっています。



今年もとても暑い夏でした。お彼岸を過ぎ、最近はやうやく秋らしさを感じることはありませんが、まだまだ夏のような暑さを感じさせられる日々です。夏といえばセミの鳴き声が特徴的ですが、最近では樹木の伐採などの影響か、以前のように至る所でセミの鳴き声を聞くことが無くなったような気がしています。セミに関するのですが仏教では、「蟪蛄春秋を識らず。伊虫あに朱陽の節を知らんや。知るものこれをいふなり」という言葉があり、これは親鸞聖人が尊敬している中国の曇鸞大師の『浄土論註』での言葉です。「蟪蛄は春秋を知らず」という荘子の言葉を引用して後半の「伊虫」を加えています。意識すると「セミは春や秋を知りません。そのような虫はどうして夏という事を知るのでしょいか。夏があると言えるのは、それらを知っている人が言うのです」といったところす。蟪蛄とはセミの事であり、セミは土の中で何年間も幼虫として過ごしますが、成虫としては夏の一週間からどんなに長くても一か月しか生きられません。その短い期間を一生懸命に鳴きながら生きています。夏しか生きられないということは当然ながら、春や秋や冬という季節の存在を知りません。ここから曇鸞大師の解釈ですが、それどころか春や秋を知らないということは、

自分が夏という季節を生きているということも分からないということす。確かにそうです。夏は春や秋があつての夏です。他の存在を知ることによって自分を理解することになります。なにもこれはセミに限った話ではありません。私たちにも言えることです。自分中心の狭い世界しか知らなければ、自分がそんな世界を生きていることに気付かずに、セミが鳴き続けるように一生懸命に生きて、あつという間に人生が終わります。自分中心の狭い世界に閉じこもるということは、どこまでも自分を正当化して物事を自分の良し悪しでしか受け止められないので、短絡的な受け止めに終始し、一喜一憂するしかありません。そんな人生はあまりに虚しくないでしょうか。

仏さまは、「あなたの良し悪しは絶対ではないよ。その価値観によつて苦しいんだよ。その苦しい気持ちにはなかなか晴れないけれど、その苦しみからあなた自身が問われているんだよ。一緒に広い世界に目を向けていこう」と呼びかけておられるのだと思います。



曇鸞大師

報恩講・御正忌のご案内



今年も報恩講・御正忌ごしょう忌の季節になりました。宗祖親鸞聖人の遺徳いしとくを偲しのぶ大切な仏事です。報恩講は私たち一人ひとりの為の仏事です。お誘い合わせてお参りください。

● 報恩講 十月十七日 (木)

午前十時〜 (お勤め・法話)

午後一時〜 (お勤め・法話)

法話は当寺の副住職が行います。

午前の法座後にお齋(食事)もございます。

※報恩講をお迎えするに当たって、お寺の仏具磨きを

十月五日(土) 九時より行います。簡単な作業で

ですので、どなたでもご参加いただければ嬉しいです。

● 親鸞聖人御正忌 十二月二十八日 (木)

午前十時〜 (お勤め・法話)

法話は当寺の若坊守が行います。

法話の後にいとこ煮などのお齋(食事)もございます。

夏のお寺の風景



祠堂経会の紙芝居法話 (石川正穂師)



夏のお楽しみ会 (流しそうめん)



石川県白山市からの団体参拝



八幡公民館での入善・八幡地区お講



暁天講座 (野田博俊師)



お盆のお墓参り

坊守日記



今年の夏は英語教室の主催で、アメリカ人の知人をお寺で英語で流しそうめんを開催しました。生徒に日本文化を英語で説明して欲しいと思い、みんなで流しそうめんをして、夜には花火を行いました。年齢層も小学生から中学生まで皆で楽しい夏休みの思い出を作りました。子ども達は年齢や学校も別々ですが、帰る頃には皆仲良くなっている姿を見てとても嬉しかったです。最近ではお寺の英語イベントを通して、子ども同士の横のつながりが出来ているように思います。私たちの子ども頃は近所の子と遊ぶ事が多く、いろいろな年齢の子達ともコミュニケーションが取れていたような気がしますが、最近ではなかなか他学年や違う学校の子達とも触れ合う機会がなくなり、ある一定の固定した友達としか遊ばなくなっているように思います。英語という言語を教えることは大事ですが、まず人と人でコミュニケーションを取る事の大切さを伝えていきたいと感じた夏休みでした。



編集後記



今年からお寺とは別に個人で成年後見人としての活動を行っています。成年後見制度とは判断能力が低下している方に代わって、家庭裁判所より任命された親族もしくは弁護士、司法書士、社会福祉士などの専門職が法律行為や財産管理を行う制度です。以前地域包括支援センターに勤務していた際、困難なケースに困っていた時に専門職の成年後見人という存在によって、問題が解決していった事が非常に印象に残っていました。お寺の活動に専念した際には自分も社会福祉士として成年後見活動に携わりたいと考えていたので、このように成年後見人としてケースを受任していくこととなりました。人の人生や家族の在り方は千差万別です。どんなケースであつても生きていけるといふことを、支援していきたいです。



派大谷 眞宗
跡聖人 親鸞
寺の 本三

辻徳法寺

〒938-0031

富山県黒部市三日市3214

TEL・FAX(0765) 52-0791

ホームページアドレス

<https://tokuhoji.net>

@temple_english_tokuhoji



次回の仏教講座の予定は12月10日(火)13時半～です
10、11月は報恩講、御正忌の行事があるのでお休みします